

入間市上下水道審議会会議録

会 議 の 名 称	入間市上下水道審議会 （令和２年度第１回）
開 催 日 時	令和２年１０月７日（水）午後１時３０分開会・午後３時閉会
開 催 場 所	豊岡配水場２階 大会議室
議 長 氏 名	会長 森谷 秀一
出 席 委 員	村上哲司、難波博、大沼正哉、小川晋、相葉学、若色房夫、小堀八千代、林恵子、竹野谷久江、坂本悦子、上野菜津子、池上公子、押木稔、手島吉紀
欠 席 委 員	なし
傍 聴 人	なし
出 席 職 員	上下水道部 岩田上下水道部長、内沼上下水道部次長 上下水道経営課 忽滑谷参事兼課長、石井主幹、森田主幹、園田副主幹、永井主任 上下水道給排水課 大津課長、手塚副主幹 上下水道整備課 黒田課長、原島主幹 上下水道管理課 矢須課長、那須主幹、矢尾副主幹、加藤副主幹
会 議 次 第	1 開 会 2 会長あいさつ 3 委員委嘱・委員あいさつ 4 報告事項 （１）令和元年度水道事業会計決算及び新水道ビジョンの令和元年度決算における進捗状況について （２）令和元年度下水道事業会計決算及び下水道事業中長期経営計画の令和元年度決算における進捗状況について （３）その他 5 その他 6 閉 会

配 布 資 料	・ 令和２年度第１回入間市上下水道審議会会議次第 ・ 入間市上下水道審議会委員名簿 ・ 令和元年度水道事業会計の決算について（資料１） ・ 入間市新水道ビジョン 進捗管理評価シート（資料２） ・ 令和元年度下水道事業会計の決算について（資料３） ・ 入間市下水道事業中長期経営計画 進捗管理評価シート（資料４） ・ 「入間市の水道・下水道」に関するアンケート調査（資料５） ・ 広報いるま号外 第１号（資料６－１） ・ 広報いるま号外 第５号（資料６－２）
会議録作成方法	要点筆記

発 言 者	会議の進行・発言内容
森 谷 会 長	只今より、令和２年度第１回上下水道審議会を開催いたします。 本日欠席の届出はありません。本日の上下水道審議会委員の出席者は、１５名中１５名です。入間市上下水道審議会条例第５条第２項の規程により定足数に達しておりますので議事に入ります。 それでは、報告事項の（１）「令和元年度水道事業会計決算及び新水道ビジョンの令和元年度決算における進捗状況について」を事務局より説明願います。
石 井 主 幹	令和元年度水道事業会計の決算について（資料１）、入間市新水道ビジョン進捗管理評価シート（資料２）について説明
若 色 委 員	資料１（１ページ）の表２の水道事業費用の中で、漏水調査及び漏水修理費が前年比１６．１％増となっています。資料２（３ページ）の豊岡、金子地区漏水調査において調査戸数１４，５２２戸に対し、漏水発見箇所５４箇所の漏水が発見されたということで、漏水調査及び漏水修理費はここに絡んでいると思うのですが、前年度比１６．１％増と目立って大きい値になったのはどのような事情があったのでしょうか。また、漏水調査はブロックを決めてローテーションで行っていると見受けられますが、漏水発見箇所は約０．４％であり、

	今までに比べ高いと思います。また、資料１（１ページ）の表１有収率を見ると平成３０年度９４．８％から令和元年度９４．１％と低下し目標である９６％を下回っており、有収率については危機意識を持つべきだと思います。単純な地域ブロック調査方式がいいのか、ブロックごとに有収率を割り出せるのであれば漏水が目立つ地域をあぶりだして、重点的に手を打っていく対策はできないのでしょうか。現状では有収率９６％への改善は難しいと思うが、この状況についてご説明をいただきたい。
矢 須 課 長	現在、漏水調査については市内を３年で一周するペースで実施しています。昨年度は豊岡・金子地区、今年度は藤沢・西武地区となっております。どこの地区で漏水が多いかというのは手元に資料がないのですが、目標としている９６％と比べてここ数年は９４％台で推移しております。平成３１年度から比較すると若干下がっている状況です。有収率９４％を目安に、これを割り込むようですと、現在の３年で一周から２年で一周に頻度を上げて、これが有収率にどのような影響を与えるか、検討していきたいと考えています。漏水調査及び漏水修理費については漏水調査で見つかった箇所のほか、通常の通報で見つかった漏水の修理費も含まれています。この漏水件数が十数件増えており、これにより漏水修理費が上がったものです。
手 島 委 員	私も有収率について気になっています。有収率が９４．１％ということは残りの５．９％がどこかへ行ってしまったということですね。そうすると昨年度は２地区漏水調査しましたが、それ以外の地区でも同じくらい漏水が起きているだろうと想像できます。するともっと早くやらないといけないのではないのでしょうか。目標９６％でずっと９４％台で、しかも下がっていますよね。すると県に余計にお金を払っているということですね。有収水量に入らない分は無駄にお金が出ている。本来の目標である９６％に届くようにもう少しどうしたらいいか手当すべきではないですか。９４％以下になったらと言っていたが、そうではなく、９６％を目標にするならもっと漏水調査をするべきではないでしょうか。
矢 須 課 長	調査地区を増やすとそれだけ費用が掛かりますので、それも含めて検討していきたいと考えております。

村 上 委 員	今の漏水に関して老朽管の更新の計画、予防保全が金額的には効いてくると 思うので、その更新計画はどうなっているのでしょうか。
黒 田 課 長	老朽管の更新計画は短期耐震化計画ということで、平成２９年から令和８年 までの短期計画として、毎年５．５km くらい更新していく計画になっています。 漏水箇所が多いところ、交通量が多いところを重点的に、優先順位を決めて更 新を進めています。
若 色 委 員	資料２（２ページ）の自己水割合の維持のところ、自己水目標２０％のと ころ令和元年度の実績１８．１８％ということで、約２％下回っています。以 前お聞きしたときに鍵山浄水場の能力をフルに使えば二十数％の自己水確保が 可能で、余力を持っているとのことで、プラントの能力がネックではなかった と思います。ここが２％下がるとその分県水を買わなければならない。鍵山で 水を作れば原価費用としては非常に安いはずで。収益に与える影響が非常に 大きいと思いますので、なぜ目標に対して２％下がったか、収益に対して圧迫 要因になっているはずですので、もしそれが渇水期の渇水によって十分に取水 ができなかったのであるならば、水が十分にあるときに二十数％作っておいて、 渇水期にはそれなりにということもできると思います。もし県水を８０％以上 買わないとペナルティがあるのであれば、県と取引し、市に有利なように変更 を試みるのも一つの策ではないでしょうか。
矢 須 課 長	まず、自己水が１８．１８％となったことについてですが、毎年２月に県に 対し年間の受水計画を申請します。その時にここ数年の総配水量を加味して申 請します。県水については申請した量の９９％を受水しなければならず、ここ 数年、年間の総配水量が減ったことで、その結果自己水確保率が２０％を割っ たということです。
若 色 委 員	であるならば、県水については想定を８０％ではなく７８％くらいにしてお いて、結果として総配水量が減っても自己水が２０％になるような、知恵を出 したほうがよろしいのではないかと。
内 沼 次 長	今、若色委員からご指摘のあった内容はまさに上下水道部内でも協議してい ることです。本来８：２でおさまるところを、今回のように８１．１２％とかに なるとその分県水を余計に買っていることになり、その分、収益的収支を圧迫

	しています。今回議題になっていないのですが、来年度予算で南峯配水池の解体を予定しており、損益収支が圧迫され、どのように利益を出していくか考えているところです。経営側からすれば8：2とすることで受水費が安価となるため、より総配水量の見込みを正確にする必要があります。逆に事業担当課からすると、安定供給のためには配水量の余裕を持ってみたいという考えがあります。若色委員のおっしゃった費用の縮減は重々わかっておりますので、今後とも検討してまいります。
池 上 委 員	資料2（8ページ）管路の更新について、28年度からやられているようですが、老朽化対策というのは市民の一番の望みで、令和元年度は計画に比して1kmほど実績が短くなった理由を教えてください。計画値が大きいというのはわかるのですが、それはそれなりの理由があって計画を立てられたと思うので、計画値に対してマイナスの理由を教えてください。
黒 田 課 長	令和元年度の計画値6,525mに対し、実績値5,689mとなりました。下段のほうにも書いてあるのですが、今年度中に工事の完了を予定していた鍵山東金子線送水管整備工事（第三・第五工区）が令和2年度に繰り越しになったということで、計画値を下回りました。また、区画整理などで布設されている管についても一部中止になったので、その影響でマイナスになっております。
池 上 委 員	工事する場所が決まったうえでのキロ数なのですね。計画にない他の場所を優先するといったことはないのですか。
黒 田 課 長	実施計画を立てたうえで計画通り実施していますが、その中で繰越になった工事もございます。先ほどの説明の中で、送水管の730mと240mを足すとおおよそマイナスになった分になります。また、区画整理などで多少組み替えた工事もございます。短期耐震化計画で計画を立ててやっておりますが、漏水などにより優先順位が変動することもございます。
手 島 委 員	前回書面でいただいた予算の資料の中で、送水管整備工事に伴い鍵山浄水場の稼働停止の期間がございます、ということでした。また翌年は鍵山浄水場の改修工事があるとのことでした。そうするとしばらくは自己水が減ることでしょうか。その辺の計画はある程度何年か分は出されているのでしょうか。
那 須 主 幹	今年度で鍵山東金子線送水管整備工事が終わります。この切り替え時に県水

手 島 委 員	受水を１００％にして工事をする時期がございます。それが１２月から３月まで４か月間続きます。これは計画を立ててやっています。
那 須 主 幹	そのほかに資料２（７ページ）に鍵山浄水場改修工事についても令和４・５年度実施予定ということで、この期間も自己水は作れないということですか。
手 島 委 員	ご指摘の通り、鍵山浄水場改修工事についても令和４・５年度実施予定です。この期間すべてではありませんが、浄水場が使えなくなりますので、すべて県水に依存する時期が出てきます。
手 島 委 員	物理的に自己水を作れないのは仕方ないが、それが分かるようにしておくとういのではないのでしょうか。動いているときは自己水２０％だけど、この期間は浄水場が動いていないので０でした、とか。単純に今年は何％と書いてあるが、それが妥当なのかわからない。４か月止まるなら、止まっていない期間には２０％作っているだとか、その辺が分かるように表現していただきたい。
那 須 主 幹	分かるように表記していきます。
若 色 委 員	資料１は税込みだが、資料２は税抜です。照合時に不便なので下水も含め税抜表示に統一していただきたい。
石 井 主 幹	新水道ビジョンの計画値が税抜で表示されていることもあって、進捗も税抜表示にしていたしましたが、今後は統一して表記します。
森 谷 会 長	続いて、報告事項の（２）「令和元年度下水道事業会計決算及び下水道事業中期経営計画の令和元年度決算における進捗状況について」を説明願います。
森 田 主 幹	令和元年度下水道事業会計の決算について（資料３）、入間市下水道事業中長期経営計画 進捗管理シート（資料２）について説明
手 島 委 員	台風により下水管に流入が起こったとの説明であったが、基本的に入間市は雨水汚水分離方式であったと思うが、どこから雨水が紛れ込んだのでしょうか。
矢 須 課 長	管と管のつなぎ目や、取り付け管とのつなぎ目、マンホールからの流入も考えられます。宅内の汚水最終升からの流入も考えられます。令和元年度におきましては台風１９号の影響により汚水量が非常に多く、資料４（１ページ）一番下にも書いてありますが、１０月分の汚水処理水量が前年度に比べ５６．８％増量していることから同月に発生した台風１９号により、管渠内に多くの浸入水が流入したと推察しております。

手 島 委 員	基本的には雨水は汚水に入らない構造ですよね。それで10%も汚水が増えるというのはすごいと思います。想定していないところから雨水が大量に入ったのではないかと。台風が増えると維持負担金が毎年5千万円くらい増えるということです。どこの経路から浸入したのか調べないと毎年5千万円くらい増えると言っているように聞こえます。そこを検討されたほうがいいのではないのでしょうか。
矢 須 課 長	有収率の近隣市の状況を調べたのですが、狭山市ですと平成30年度は90.33%だったのが、令和元年度は77.49%、12.84ポイント下がっています。川越市は平成30年度が73.50%だったものが、令和元年度は65.70%と7.8ポイント下がっており、近隣はそういう状況です。下水道ストックマネジメント計画に基づき、継続的に維持管理を行っていくためにカメラ調査を行っているのですが、調査の中で浸入水が確認された箇所については緊急修繕を行っています。今後もそのようなことで有収率の向上に努めてまいります。
若 色 委 員	資料4（4ページ）上段に値上げを検討していると書かれています。令和5年度に改定率10%程度の予定と書かれています。これは資料3の令和元年度決算を見ても収入は他会計負担金、他会計補助金といういわば税金でもって補填して成り立っています。それが3億7千万円ありますから、補助なしでは成り立ちえないということは承知しています。そのうえで値上げを考える場合に下水道普及率がほぼ90%ということで、下水道を利用していない10%の方の払っている税金を投入することには不公平が存在します。ところが値上げを行う場合、高所得者、低所得者ほぼ同じように10%値上げの負荷がかかってきます。私は低所得者の方の負担をある程度フォローしながら進めていく必要があるのではないかと思います。市の事業体としてその辺の考え方をよくよく検討し、進めていただきたいと思います。
内 沼 次 長	上水道も下水道も令和5年度にあくまで試算としてですが、値上げを織り込んでいます。新水道ビジョンと中長期経営計画を作るときに委員の皆さんから頂戴した意見として、あくまで試算として出しているものなので、実際に料金改定を検討する段階で、実施の有無を含めてよく精査するように指示いただい

	ております。平成２９年度に始まった計画なので令和３年度に前期５年が終了しますので、計画した投資財政計画を見直し、投資と財政のバランスを確認させていただき、来年の審議会でそれをお示ししながら料金改定の実施の有無を含めて協議をさせてもらう予定でございます。下水のほうは税が投入されているという非常に好ましくない状況と認識しています。ただこの計画を作った時期は下水道が特別会計から企業会計になったばかりであり、多額の起債残高が残っていた状況です。そこで一般会計と協議し、その償還については一部負担するということで立てた計画です。ですので補助金の削減は求められています、負担金のほうは本来、市のほうで負担すべきものです。補助金は削減する方向で決算も出しております。いただいた意見については肝に銘じて協議していきます。
相 葉 委 員	先ほどの説明のなかで度々、ストックマネジメント計画という言葉が出てきましたが、これに基づいて調査点検改修計画を立てるということのようですが、この計画は中長期経営計画の下位計画に位置付けてそれに基づいて今後もストックマネジメント計画を見直していくものなのか、位置付けについて説明をお願いします。
原 島 主 幹	ストックマネジメント計画は中長期経営計画の下位に位置付けている計画です。この計画は既存の下水道管路施設について計画的に点検調査を行って、その結果に基づいて修繕改築を行っていくための計画です。平成３０年度に作成しまして、この計画をもとに国庫補助金を活用し、優先順位を付けて口径の大きい管から調査を行っていきます。ある程度調査結果がまとまった段階で、調査結果を基に修繕するか、又は布設替えするか、管渠更生を行うのかを判断し、工事を行っていくものです。見直しについては、平成３０年度に策定したため、策定から間もないことから見直しは行わず、現段階では決められた優先順位に基づき事業を進めてまいります。
村 上 委 員	中長期経営計画の考え方についてお聞きしたい。コロナで在宅が増えて入間市の昼間人口は増えていると思います。水の使用量、汚水量が増えているのではないのでしょうか。どのくらい昼間人口が増え、中長期計画にどの程度影響してくるかと考えていますか。

森 田 主 幹	下水道の使用量がコロナの影響で増減しているのかについては、注視しているところでございます。ここ最近の傾向としては、口径の小さい一般家庭の使用量はやや上昇しており、一方、口径の大きい工場や企業の使用量が減っております。小さい口径で増えた水量と大きい口径で減った水量がほぼ同じ月もございしますが、大きい口径の高い単価の水量が減っておりますので、結果として下水道使用料収入はやや下がっています。今後の使用量の見通しを予測することは困難ではございますが、今後の推移について注視していきたいと考えています。
森 谷 会 長	続きまして、報告事項の（３）「その他」について、説明願います。
石 井 主 幹	「入間市の水道・下水道」に関するアンケート（資料５）、入間市感染症緊急対策事業として上下水道部が実施した事業（資料６－１、６－２）について説明
難 波 委 員	コロナ感染がますます広がり、入間市でも感染者が増えています。水道基本料金の半額減額は事業計画にどう影響するのか報告いただきたい。
忽 滑 谷 参 事	水道基本料金の半年間半額の影響ですけれども、おおよそ７，８００万円ほどの減収となる見込みです。令和元年度最終補正の段階での純利益の見込みと実際に決算を迎えましての純利益の差額が７，３００万円ほど上振れていましたので、こちらの費用を活用して事業を実施するという判断をしました。直ちに経営に大きな影響を与えるものではありませんので、また改めて決算が固まりましたらご報告します。
難 波 委 員	コロナに伴い、人の動きが制限されています。上下水道の工事にも影響を与えと考えられます。工事の進捗がこの全体計画にどう波及するのか。分かる範囲でお教えいただければと思います。
黒 田 課 長	上下水道の工事は計画通り実施いたします。コロナ禍であっても命の水ですので、工事は切らすことなく進めていきます。
若 色 委 員	アンケート調査について、資料５（３ページ）問１から水道水の味についての質問があります。入間市の自己水は鍵山浄水場で高度処理というおいしい水を作るプロセスが整っています。一方、８割を占める県水を作る大久保浄水場には高度処理がついていません。高度処理をした水と、していない水を飲み比

	べたことはありませんが、混ぜて供給しているならば味を問うたところで、そんなにいいはずはないということになりかねない。一つの解決策として、大久保浄水場の水の供給を受けている市で連合して、大久保浄水場に高度処理をつけていただくようお願いできないか。オゾン処理と活性炭処理を後付けでつけられれば、高度処理は成り立つはずですし、そんなにコストアップにならないと思います。そのような働きかけをしてもいいのではないのでしょうか。
那 須 主 幹	大久保浄水場に高度浄水を導入することは決まっております。実施設計が令和2、3年、施工が4年から8年までで予定されているようです。
林 委 員	9月の連休に自宅前の水道管が破裂して水がジャージャー出ていたのですが、休みの日にもかかわらず業者の方や職員の方が来て作業をしていました。おかげで夕方までには直りました。初めて現場を見て、感激しました。ありがとうございました。
坂 本 委 員	マンションに住んでいる人はタンクに貯めて給水するのですが、その場合水の味は同じなののでしょうか。
大 津 課 長	基本的には一般住宅と貯水槽を通した水に味の違いはないと思います。特に、貯水槽は10トン以上であれば年一回の法定点検を受けて県に報告しておりますので、受水槽設置者において水質管理もしっかりしていると思います。
森 谷 会 長	以上で4の「報告事項」については終了といたします。続いて、5の「その他」ですが、事務局から何かありますか。
石 井 主 幹	次回の審議会については来年3月を予定しております。具体的な日時については、事前に通知いたします。
森 谷 会 長	それでは以上で、令和2年度第1回上下水道審議会を閉会いたします。 ご協力ありがとうございました。
議事のとん末・概要を記載し、その相違なきことを証するためにここに署名する。 令和2年10月28日 入間市上下水道審議会会長 <u>森 谷 秀 一</u>	